

同窓会会報

高知県立大学看護学部

第5号

平成24年9月20日発行

〒781-8515 高知市池2751-1



看護学部棟からみた中庭

ごあいさつ

同窓会会長 梶原和歌

平成24年度の同窓会総会は、7月14日夕刻、総会と宴を兼ねて得月楼で開催いたしました。出席者は1期生から20期生までの黎明期のご先祖様28名、今看護界中堅リーダーとしてご活躍の21期生から40期生まで36名、これからの時代を担う41期生から51期生までと実践・研究の理論家として活躍中の修士(M)1～13期生、博士(D)1～9期生までの29名でした。

この三層構造になっている我が同窓生が一同に会し語り歌い踊りましたが、そのエネルギーには特別な想いがあることを感じます。まずそれは組織風土となっている、女子医専を廃校して四年制看護大学を創ってきたという先駆性へのプライド、第二には、到来する高齢社会に対し、人々の健康と生活を護る具体的システムを創るのは看護を担う私たちという役割意識、加えて南海トラフの震災予測にどう対処するのか、震災ナース、OBナースとして地域での活動にも腹が据わっているように思います。大学での先生方の科研費採択率全国10位の実績や防災訓練への南裕子学長を先頭にした取組なども伝わってきました。これからの看護学部の益々のご発展を祈念します。そして看護科を卒業した同窓生たちは新しい価値の創造を目指して、いつまでもがんばっていきましょう。



主な内容

- ①同窓会会長ごあいさつ
- ②同窓会総会報告
- ③同窓会 宴
- ④同窓会 宴に参加して
- ⑤第38回 高知女子大学看護学会の報告
- ⑥温故知新
- ⑦看護学部の活動



平成24年度 同窓会総会報告

平成24年7月14日(土)、平成24年度看護学部同窓会総会が開催されました。本年度の総会は、会場をはりまや橋のたもとにある得月楼(土佐の由緒ある料亭)で、県内外から駆けつけてくれた93名の参加のもと行われました。

同窓会長あいさつ



総会では、梶原和歌同窓会会長よりあいさつがあり、今後、総会の場を重視した同窓生のネットワーク作りの推進や会報による情報発信の充実、現役生の教育・研究支援等に力を入れていきたいと話されました。

議事

議長に松永智香氏(51期生)を選出し、次第に則って議事が審議されました。



会次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議長選出
4. 議事
 - 1) 報告事項
 - (1) 平成23年度活動報告について
 - (2) 平成23年度決算報告について
 - (3) 平成23年度会計監査報告について
 - 2) 審議事項
 - (1) 平成24年度活動計画案
 - (2) 平成24年度予算案
 - (3) 平成24年度役員について
5. 看護学部長あいさつ
6. 閉会

平成23年度活動報告・決算報告

庶務担当の森下利子氏より平成23年度同窓会活動報告がされました。

引き続き、会見担当の槇本香氏より、平成23年度決算報告がなされ承認されました。

平成24年度活動計画、役員について報告がされ、承認されました。



1. 会議

- (1) 総会 平成23年7月9日
- (2) 役員会 5回開催

2. 事業

- (1) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)

講演1 テーマ「Profession、Specialistを育成する看護学教育」
講師:野嶋佑由美先生(高知県立大学 副学長)

講演2 テーマ「多様化する社会のニーズに応える専門職の育成」
講師:藤田佐和先生(高知県立大学看護学部 教授)

- (2) 会報発行 第3号・第4号
- (3) 東日本大震災災害義援金の協力活動の継続



平成24年度活動計画

- 1) 総会
- 2) 役員会
- 3) 講演会(高知女子大学看護学会との共催)
講演1 テーマ「実践の知を紡ぐー実践から学び、看護を創造する」
講師:陣田泰子先生(済生会横浜市南部病院 院長補佐)
- 4) 会報発行 第5号、第6号発行
- 5) 学生災害ボランティアへの支援

学部長あいさつ



中野学部長からは、これまでの高知女子大学の伝統を受け継ぎ高知県立大学を発展させていきたいとあいさつをされました。



得月楼での総会の様子

同窓会役員

平成24年度役員

役員名	氏名	卒業・修了期	所属
会長	梶原和歌	10期生	近森病院看護部
副会長	中野綾美*1	27期生	高知県立大学看護学部長
	松本女里*2	8期生	高知女子大学看護学会会長
書記	中西純子	博士1期生	愛媛県立医療技術大学
	池添志乃	34期生, 修士2期生, 博士1期生	高知県立大学看護学部
会計	川上理子	35期生	高知県立大学看護学部
	楨本 香	51期生, 修士12期生	高知県立大学看護学部
会計監査	山本雅子	23期生	健康政策部健康長寿政策課
	久保田加代子	25期生	高知医療センター看護局
庶務	角谷広子	25期生, 修士5期生	芸西病院看護部
	森下利子	19期生	高知県立大学看護学部
	石井 歩*3	49期生, 修士12期生	高知県立大学看護学部

*1:看護学部長、
*2:看護学会会長、
*3:看護学会役員
は当て職とする



平成22年度 会計報告

(平成23年 4月 1日から平成24年 3月 31日)

○収入の部

費目	予算額	収入額	備考
前年度繰り越し	5,356,728	5,356,728	平成23年度在学生289名分の終身会費4,335,000円を含む
寄付金	400,000	221,000	のべ26名分
活動支援金	1,500,000	1,500,000	高知女子大学看護学会から総額2,000,000円のうち の残額分
平成23年度会費	1,470,000	1,500,000	学部生85名 卒業生1名 大学院生14名 合計100名×15,000円
雑収入	800	844	利息
収入合計	8,727,528	8,578,572	

平成23年度 決算残高 収入合計 ¥8,578,572
支出合計 ¥1,142,130
差引残高総計 ¥7,436,442

平成23年度決算報告について監査を行い、
以上相違ありません。

山本雅子 (印)
久保田加代子 (印)

○支出の部

費目	予算額	支出額	備考	
会議費	20,000	11,258	役員会等	
事業費	同窓会報発行費	400,000	400,000	会報発行2回
	災害義援金 拠出費	300,000	300,000	
事務費	通信費	300,000	88,230	配送費(会報第4号は次 年度支払い)、切手代
	印刷費	60,000	58,215	インク代
	消耗品費	100,000	14,007	ファイルほか事務用品、 印鑑など
報償費	50,000	42,020	会報発送作業等 アルバイト料・手数料	
備品費	230,000	218,400	ノートパソコン一式	
予備費	7,267,528	10,000	南裕子先生ナイチンゲル 記章受章お祝い花代	
支出合計	8,727,528	1,142,130		

平成24年度 予算案

(平成24年 4月 1日から平成25年 3月 31日)

○収入の部

費目	予算額	備考
平成23年度繰越金	7,436,442	平成24年度在校生328名(学部 294名、修士34名)分の終身会費 (4,920,000円)を含む
平成24年度会費	1,530,000	学部生84人 大学院生18人 合計 102人×15,000円
寄付金	250,000	1口1,000円×250口
雑収入	1,000	利息
収入合計	9,217,442	

○支出の部

費目	予算額	備考	
会議費	20,000	役員会等	
事業費	同窓会報発行費	400,000	会報発行 2回
	学生支援金	100,000	学生災害ボランティア活動費
事務費	通信費	300,000	会報発送費、切手代
	印刷費	70,000	封筒印刷ほか
	消耗品費	50,000	事務用品
	報償費	65,000	会報発送作業等 アルバイト料・手数料
予備費	8,212,442		
支出合計	9,217,442		

同窓会 宴

今年の同窓会は、高知市中心街、はりまや橋のたもとから東へ徒歩3分ほどの距離にある、土佐の老舗料亭「得月楼」で行われました。
 宴の進行は、本同窓会役員の山本雅子氏、角谷広子氏の両氏が務めました。
 まず最初に、山崎智子先生、野嶋佐由美先生の乾杯の音頭により、宴がスタートされました。



得月楼の大広間

「得月楼」メモ その1
 「得月楼」は、昭和初期の土佐の花柳界を描いた宮尾登美子氏の出世作「陽暉楼」の舞台としても広く知られています。また、映画の舞台ともなっています。

司会進行役の山本雅子氏、角谷広子氏



山崎智子先生、野嶋先生の乾杯のあいさつ

「得月楼」メモ その2
 大広間の天井板は、魚梁瀬杉(やなせすぎ)の一枚板で作られています。戦後の昭和25年、建築士柳生氏によって設計されたもので、実際は12mほどのものになる予定でしたが、運送の際にどうしても通れない所があり、仕方なく2m程切り下ろしたことが伝えられています。平成17年には登録有形文化財に指定されたそうです。

3期生



5期生

看護学部の礎を築いてくださった先輩方



10~13期生



17~20期生



宴での歓談

25～26期生



27期生



23期生



松本女里先生を囲んで・・・

28～32期生



懐かしい顔が
そろいました

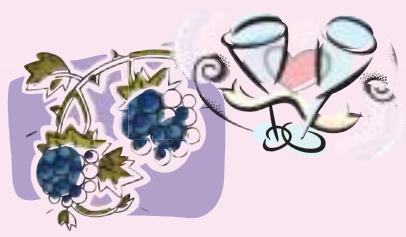
33～35期生



松本女里先生
から翌日開催
される看護学会
のPRがありました



38～51期生



修士修了生



博士修了生・在学生



宴での歓談



得月楼の大広間



土佐のお座敷遊び …しばてん踊り



相撲を取るのが大好きな、カッパに似た男の子の妖怪が土佐にいたそうです。それが「しばてん」。ラジオ高知(RKC)のかつての人気番組で、「しばてん音頭」を作ろうという話題から生まれた新しい民謡です。ユーモラスなほろ酔い顔を染めた「しばてん手ぬぐい」を頭からかぶり、輪になって踊れば、お座敷は最高潮に。

作曲:武政英策 歌詞:黒崎ひろし 編曲:酔太

1. こーれがねエ たまるかネ ゆうべの夢に
ネート チャツ チャツ
好きなあの子の手を引いて おんしゃ
なんなら おらしばてーんよ
おんちゃん相撲取る取るーちや
チャツ チャー
*ハッケヨイヨイ ハッケヨイヨイ コ
ハッケヨイヨイ ハケヨイヨイ
ソレ ノコッタノコッタ マダマダ

2. 略

3. ほーれてねエ 通うたネ はりまや橋で
ネート チャツ チャツ
買うたかんざし珊瑚玉 おんしゃ
なんなら おらしばてーんよ
おんちゃん相撲取る取るーちや チャツ チャー
(* くり返し)

たまるかネ
=まあ!

おんしゃあ
=あなた

相撲取ろうちや
=相撲を取ろうよ
(強調の意味)

おら、しばて
んよ=私の
名前はしば
てんです

顔につけているのは
しばてんのお面

おんちゃん
=おじさん

おんしゃ、
なんなら=
あなたは誰
ですか?



山田先生の一本締めで
宴はお開きとなりました



同窓会 宴に参加して

福岡恵美子さん(5期生)

〔しばてん青春記〕

竜馬と潮と土の香りを漲ぎらせた街並一何年振りだろうか。ここは「土佐」だ。そして白衣とアルコールとストレッチャーが後をつけて来るような・・・。高知市は、まごうことなく私の人生の起点ー青春のプロローグ。さて、山崎美恵子さんお号令いつか、私達五期生は得月楼に馳せ参じた。(同窓会参加率第一位ー8名ーという誇りを伴って)卒業後五十有余年、同級生はそれぞれに看護行政のリーダーとなったり、母校の看護学部長・総合病院の総看護師長・開業医の夫を支える賢夫人となった。

唐突ではあるが尊敬する先輩(菊井和子氏は阪大大学院で臨床哲学を修め、後輩と呼ぶにはおそれ多い南学長はナイチンゲール記章をはじめ数々の栄誉と重責を担われている。野嶋副学長しかり。)

我が国の看護大学教育の先鞭を切った母校は今尚、私に誇りと情熱と夢を与えている。「母校に乾杯!!」ああ紙面が足りない。 — 完 —



林 昭子さん(10期生)

平成24年度看護学部同窓会総会が、7月14日に「第38回高知女子大学看護学会」の前夜祭を兼ね「得月楼」で開催され93人が出席しました。総会の後は、同窓生の親睦を深める機会にしたいという事務局の企画で食事をしながらの盛大な交流の場となりました。久しぶりにお会いした方々と近況報告など話が弾んだことでした。また同窓生の多方面での活躍も多く聞くことができました。

これまで先生方が学生1人1人を丁寧に支援してこられた伝統の成果だと思われました。私も会場の恩師にお会いして、学生の時や卒業後も大変お世話になったことを思い浮かべ、心からありがたく思ったことでした。高知県立大学となり2年目を迎えましたが、これまでのよき伝統を生かして、新しい時代のニーズに沿った看護学部としてますますの発展を願っています。



岡本英さん(13期生)

さる7月14日、初めて看護学部の同窓会に参加いたしました。残念ながら13期生は私一人だけでしたが、93名の同窓生と旧交を温め楽しい時間を共にすることができました。

高知城で和井先生にご馳走になったアイスクリンの美味しかったこと、たまたま隣り合わせた先輩と保健師実習が同じだったことが判りビックリ、等々話は尽きず、シバテン踊りで盛り上がり、あっという間に閉会の一本締め時間が来てしまいました。

永国寺町の木造2階建校舎を後にして早いもので46年になります。そういえば主な実習施設であった高知県立中央病院も木造2階建てでした。たとえば、手術室の床掃除や手術衣の洗濯・取り込みもその一環、というような今では考えられないような実習でしたが、臨床看護師の養成に関わっている現在、職業教育の①方法としてそれなりに意味があったなと思うようになってきています。

今回、自分が看護学部のご先祖様グループメンバーであったことが一番の驚きでしたが、これからはその名に恥じないように後輩の皆様の活躍を見守らせて頂こうと思っています。



安岡暁子さん(25期生)

うわあ～、時の流れが感じられるお顔、お姿をあちこちにお見かけして、心の中で叫び声を上げていました。同級生はともかく懐かしい先生方は、ちっともお変わりなく皆様お元気そうで三十数年ぶりの再会に感激しました。今や看護系大学は二百を超えとか、五十一期生の方を始め皆様方が全国の第一線で活躍されているとか、母校が益々繁栄しているのを聞くのは、大変に嬉しく思いました。会場の老舗料亭と比べるのは失礼に当るかもしれませんが、看護大学の老舗として何時までも隆盛をもって発展して欲しいと願うばかりです。

余興のシバテン踊りの講習も楽しかったし、最後のしめに高知女子大学看護学科の伝統の唄である「リンゴ娘」を大声で歌っているうちに二十歳の娘に戻っていました。入学して直ぐにあった新入生歓迎パーティ・クリスマスパーティ・精華園での実習などが「地球をめぐり」でなく、脳裏を駆け巡っていました。本当に楽しいひと時を有難うございました。



第38回 高知女子大学 看護学会の報告

平成24年7月15日、第38回高知女子大学看護学会が開催されました。今回のメインテーマは昨年度に引き続き「未来の看護を創る人材を育てる教育」と題し、学会員と一般参加者あわせて約120名の参加がありました。

講演会

午前中の講演会は「実践の知を紡ぐー実践から学び、看護を創造する」と題し、陣田泰子先生（済生会横浜市南部病院 院長補佐）にご講演いただきました。臨床での理論と実践の統合について、陣田先生の「看護現場学」が誕生した背景や基盤となる理論を紹介いただいたあと、ワークシートを用いた「経験の概念化」を参加者全員が実施しました。このワークによる陣田先生と会場とのやりとりから、自分の看護の語り、内省、看護観の形成、看護の本質へとたどりつくプロセスを実際に学ぶことができました。参加者からも「日頃の業務を改めて振り返り、看護の知につなげていきたいと感じた」、「ワークシートを使うと、思っていたよりも簡単に、自分の“看護の知”や“看護観”につながるのが分かった」など、実践に活用できる内容であったことが伺えました。



講師：陣田泰子先生



講演の様子・・・多くの参加者がこれまでの自らの実践を振り返る機会になりました。

ワークショップ



ワークショップⅠ
「事例のふり返しから学ぶ力」での様子

午後からは、実践をとおして新しい看護を創り出していく力、あるいは新たな看護の知を創造していくために必要な力を育てることに関する7つのテーマでワークショップを開催しました。各ワークショップでは10～40名が参加し、話題提供者からのテーマに関するプレゼンテーション後、意見交換や討議が活発に行われました。

ワークショップⅠ「事例のふり返しから学ぶ力」の参加者からは「事例を振り返ることは、患者さんと、また自分自身と向き合うことにつながると感じた」、「事例検討での先輩からの助言は、自分の看護に足りないところだけでなく、よいところもフィードバックしてもらえ、自信になる」などの意見が出されました。



ワークショップテーマ

- I「事例のふり返りから学ぶ力」
- II「看護専門職としての自己を育てる力」
- III「シミュレーションで高める実践力」
- IV「状況を変えていく交渉力」
- V「場の課題に取り組む力 -災害に焦点をあてて-
- VI「他職種と連携する力
-子どもの心を守る取り組みをとおして-
- VII「患者さんから得る力
-新人のためのワークショップ-

ワークショップVI

「他職種と連携するカー子どもの心を守る取り組みをとおして-」での様子



ワークショップVI「他職種と連携するカー子どもの心を守る取り組みをとおして-」の参加者からは「様々な職種の方の意見や考えを聞くことができ、多くの機関と連携できるとよいと感じた。多くの事例を共有でき、現場でも今日の内容をふまえ実践していきたいと思った。」という感想がありました。



ワークショップVII

「患者さんから得るカー新人のためのワークショップ-」での様子

ワークショップVII「患者さんから得るカー新人のためのワークショップ-」は高知県内外から就職1年目の卒業生12名の参加がありました。「1年目の悩みを同期のみんなと共有できて、自分だけじゃないんだと思えました。新人の今だからこそできる看護を大切に、これからも頑張っていきたいと思います。」などの感想がありました。

総会

総会は学会員の皆様に多数ご参加いただくことができました。平成24年度役員改選では、新学会長の野嶋佐由美氏をはじめ、15名の新役員が承認されました。旧役員を代表し、松本女里学会長からごあいさつをいただきました。松本学会長は「卒業生、地域の看護職のみなさまに貢献できる学会を」というお考えを大切にされ、8年間、学会のリーダーとして私達を引っ張ってくださいました。長い間、ほんとうにありがとうございました。



松本女里学会長(右端)あいさつ



野嶋佐由美新学会長(左端)あいさつ

温故知新～1



高等看護學講座（株式會社醫學書院）1952年発刊 全20巻

高等看護學講座		全20巻
編者 橋本寛敏		
1. 看護倫理	橋本寛敏	100
2. 看護婦の倫理	橋本寛敏	100
3. 看護婦の業務	橋本寛敏	100
4. 看護婦の教育	橋本寛敏	100
5. 看護婦の生活	橋本寛敏	100
6. 看護婦の健康	橋本寛敏	100
7. 看護婦の法律	橋本寛敏	100
8. 看護婦の歴史	橋本寛敏	100
9. 看護婦の将来	橋本寛敏	100
10. 看護婦の国際化	橋本寛敏	100
11. 看護婦の社会	橋本寛敏	100
12. 看護婦の文化	橋本寛敏	100
13. 看護婦の芸術	橋本寛敏	100
14. 看護婦の科学	橋本寛敏	100
15. 看護婦の技術	橋本寛敏	100
16. 看護婦の知識	橋本寛敏	100
17. 看護婦の技能	橋本寛敏	100
18. 看護婦の態度	橋本寛敏	100
19. 看護婦の情操	橋本寛敏	100
20. 看護婦の理想	橋本寛敏	100

これを見て、(懐かしい)と思われる先輩方もたくさんいらっしゃることでしょ。これらは橋本寛敏先生監修で、当時教科書として使われていました。

今回は「第2巻：看護倫理・看護史」を紹介します。第2巻のまえがきでは、“看護教育の課題で、看護倫理は最も重要な科目である。これを教えることをゆるがせにすれば、医学に関する教育がいかに良くても、看護技術の訓練がいかに良くても、竜を画いて、眼を画かなかつたのに等しい。(中略)看護学講座の監輯をするに当たっては、看護婦の倫理であるから、是非とも、看護婦の間から執筆者を得たかつたのだが、あらゆる尽力も効なく、六年を過ぎててもなお成功しなかつた。(中略)そこで、著者は、医師ではあるが、新しい体制に適する看護業務を過去25年以上の永きに亙つて親しく観察し、又そのような看護婦と協力して診療業務を行つてきた経験者として、この看護倫理を書き、過渡期の空白を充し、間に合わせることにした。看護婦が書いたものではなくて、医師が書いた看護倫理であるから主観よりも客観する傾向がある。”(橋本1952)、と看護倫理の重要性、過渡期である故の困難を述べておられます。

実際に看護倫理として述べられている職業倫理では、看護婦の身の持ち方として、健康管理・職業の責任・職務に対する誠実・継続的な学習・医学の進歩への貢献など、現在でも重要な倫理が丁寧に説明されています。

ただし、患者さん、家族への接し方についての記述はとても素敵ですが、【医師に対して】では、(もうちょっと言い方があつたでしょう)と思うような部分もみられます。“診断を決し、治療の方針を立てることは、全然医師の仕事であつて、看護婦がそれに口を入れるような越権があつてはならない。(中略)看護婦が良く勉強して経験を積むに従つて、自信を持つと、独善主義に陥る危険があるから、自粛しなければならない。”(橋本1952)では橋本先生の主観が入っているように思われます。

この教科書で勉強された私たちの先輩方は、後に日本最初の看護職による教科書を編纂されています。また、看護教育に入られた先輩方が、大学時代の私たちに教えて下さつたことは、「教科書や教員の言うことをうのみにするな。疑問を持ちなさい。自分でよく考えなさい。」でした。

ともあれ、60年前の看護の教科書は今となつては貴重なものです。看護学講座のシリーズは残念ながら本学にも全部は揃つておりません。もし、これらの教科書やその他の古い看護の文献、あるいは看護の雑誌等をお持ちの方で、寄贈してもいいとおっしゃる方がいらっしゃつたら、是非、下記までご連絡・ご送付【連絡後、送料受け取り人払い】下さいますようお願い申し上げます。

(特に、ナーセスライブラリという雑誌をお持ちの方はいらっしゃいませんか？探しております。)

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部同窓会 088-847-8718 (担当：川上理子)

看護学部の活動

～地域に開かれた大学として～

オープンキャンパス

高知県立大学では、8月5日(日)に全学部によるオープンキャンパスが開催されました。看護学部では、県内外から250名を超える高校生や保護者、高校の先生方の来校がありました。看護学部の説明会や体験授業、在学生との交流など様々なイベントを通して、高校生たちは看護教育の一端や取り組みを知る機会となり、充実した1日となりました！



老人看護体験コーナーでは、実際の高齢の方の感覚を体験。1つひとつの動作の大変さを実感！



基礎看護実習室では血圧測定や心音の聴取などさまざまな体験に熱心に取り組んでいました

赤ちゃんのお風呂やへその緒を切る疑似体験は皆さん興味津々でした。

新生児の沐浴体験をしました

看護体験コーナーでは、その思いを胸に抱いた在校生たちが、未来の後輩を暖かく迎えてくれました。

看護学部のテーマは「Life」。多くの人たちに会い、その方の暮らし・人生「Life」に寄り添う看護をいつも考え、行えるように。



助産師の卵です！高校生の皆さんも興味津々。

特別講演

看護学研究科：Pamela Minarik先生の特別講義がありました

アメリカのサミュエルメリット大学からPamela Minarik先生が来日され、6月5日、6日に特別講義が行われました。

パメラ先生は、UCSF大学病院で、リエゾン精神看護専門看護師として勤務されてきました。

5日は、修士課程の学生と本学教員を対象に、アメリカにおける高度実践看護師(APN)の活動内容について、高度実践看護師の修得すべき能力(コンピテンシー)と期待される活動についてお話をしました。

CNSコースの学生にとって、キャリア開発につながる内容であり、有意義なひと時でした。

6日はアメリカにおけるAPN教育の現状と課題についての内容でした。通訳が南学長という大変貴重な特別講義で、看護教育に携わる本学教員だけでなく、県内の病院で実際に活動している看護師やCNSの皆さんの参加もあり、教育と実践の現場を結びつける意義ある会となりました。



南学長とPamela先生



講義は終始なごやかな雰囲気でした

ご寄付をいただいた方

下記の皆様より寄付をいただきました。誠にありがとうございました。(敬称略 平成24年9月20日現在)

正会員

山崎 智子(3期)	中澤 フミエ(3期)	福岡 恵美子(5期)	西田 益子(6期)
近田 敬子(7期)	梶原 和歌(10期)	梶本 市子(13期)	岡本 眞知子(22期)
山田 薫(26期)	久保田 聡美(32期)	山本 富貴(33期)	青木 淳美(34期)
吉村 利津子(修士7期)			



高知女子大学看護学会 公開講座のご案内

高知女子大学看護学会
公開講座のご案内
「やってみてわかる！分析方法」
第1回 「データの質的な分析」
■内 容: インタビューで集めたデータを実際に分析することを通して、質的なデータ分析の方法を学ぶ
■日 時: H24年10月27日(土)14:00~16:00
■場 所: 高知県立大学永国寺キャンパス 講義棟251教室
■講 師: 池添志乃、地地博子 (高知県立大学看護学部)
■定 員: 80名
■参加費: 2,000円
■申し込み方法: 裏面のFAX用紙をお願いします。
※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

高知女子大学看護学会
公開講座のご案内
「やってみてわかる！分析方法」
第2回 「データの統計的な分析」
■内 容: 統計的な分析の基礎を理解するとともに、実際にエクセルを使って統計処理の仕方を学ぶ
■日 時: H24年11月10日(土)14:00~16:00
■場 所: 高知県立大学池子キャンパス 看護棟2階205教室
■講 師: 神原美子、川上聡子 (高知県立大学看護学部)
■定 員: 80名
■参加費: 2,000円
■申し込み方法: 裏面のFAX用紙をお願いします。

寄付のお願い

同窓会への寄付のご協力をよろしくお願いいたします。
寄付金は、同封の振込用紙にてお願いします。ホームページでもご覧いただけます。
ご不明な点はいつでもお問い合わせください。



編集後記
本年度の同窓会総会は、高知女子大学看護学部の創設期の先輩方が多数駆けつけてくださり、若い卒業生と共に、同窓会ならではのなごやかな雰囲気のもとに、開催できたことが大変印象的でした。本会報では、ご参加いただいた同窓生を「期生」とにおさめましたので、ぜひ懐かしいお顔を探してください。どなたかわかるでしょうか……。

今年参加できなかった同窓生の皆さまは、来年の同窓会には、ぜひお誘い合わせの上ご参加ください。同窓会役員一同、さらなる交流の輪が広がることを願っています。(森下・池添)

事務局

〒781-8515 高知市池2751-1 高知県立大学看護学部
Fax: 088-847-8750

ホームページアドレス

高知県立大学
<http://www.u-kochi.ac.jp/>
高知県立大学看護学部
<http://www.u-kochi.ac.jp/~kango/>

